

My First Stage

患者の背景を踏まえて治療にこだわる若手Dr.にご登場いただく欄

Gerber理論に基づいた総義歯製作を行った一症例

手嶋将人

静岡県勤務 ポプラ歯科医院
連絡先：〒434-0012 静岡県浜松市浜北区中瀬7136-98



キーワード：Gerber理論，無圧的印象採得，総義歯製作

臨床経験年数

2010年3月，日本大学歯学部卒業。同大学臨床研修後ポプラ歯科医院に勤務。2013年JTコンセプト in 浜松(CR修復セミナー：田代浩史先生)受講。2015年SHIFTかたつむり講演会(総義歯)に参加後，2016年Gerber理論に基づいたデンチャーコース in スペイン(Dt. Max Bosshart)を受講。

診療方針

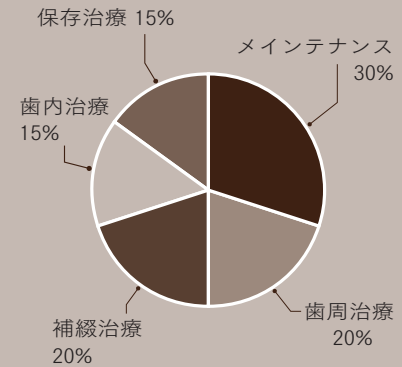
「患者との対話」を第一に掲げ

る。コミュニケーションを大切に
して，いかに自分のことを知って
いただき，いかに患者との信頼関
係を築くかに重点をおいて診療を
行う。

1 日々の臨床

当院は浜松市中心部から離れた
郊外に位置する。患者層は小児か
ら高齢者まで幅広い。予防管理と
基本治療をしっかりと行い，地域
の口腔環境の改善を念頭において
治療している。

日常臨床で行う治療の内訳



初診時の状態



図1 a | 図1 b

図1 a, b 初診時口腔内正面観と旧義歯装着時。下顎旧義歯は支持域に収まっておらず，不安定であることが伺える。



図2 a~d 旧義歯と旧義歯装着時顔貌写真。咬合高径は低く，下顎前方偏位を認める。

患者のバックグラウンド

患者

92歳，女性．全身疾患はなく補助なしで歩行ができる．娘家族と同居しており，平日はデイサービスへ通っている．性格は明るく社会的で人との会話を何よりも楽しみにしている．歯科治療にも協力的である．

主訴

会話時に，口を手で覆わなければ入れ歯が飛び出る不安があるため，安定した浮かない入れ歯をつくってほしい．

歯科既往歴

8年前に上下顎総義歯を製作．なかなか義歯に馴染めず使用時における痛みや装着時の違和感があったが，その都度，調整を繰り返して現在に至る．

その他

2週に1回程度来院可能で，付き添いの家族より来院回数と時間がかかってもよいのと，保険治療を希望との話があった．



図 3 a | 図 3 b



図 3 a, b アルジネート印象材による概形印象体．

図 4 a | 図 4 b

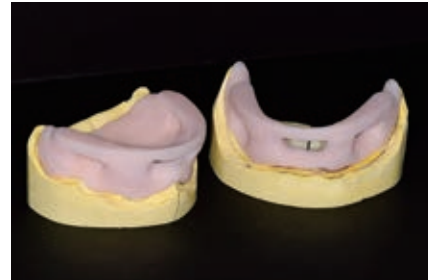


図 4 a 概形印象より製作された規格模型．

図 4 b 個人トレー．

診査・診断，治療計画

■ **どのように診査を進め，診断したか：**①下顎に水平的な重度歯槽骨吸収を認め，支持域が狭い．②旧義歯は，義歯床辺縁が咀嚼粘膜に局限して過小であった．③Willis法で咬合高径が低位であり，ゴシックアーチを描記した結果，下顎位の前方偏位を認めた．

■ **診査結果および治療計画説明時の患者の反応：**本症例では印象採得が重要であると考えた．Max

Bosshart氏によるGerber理論に基づいたデンチャーコースで学んだ手法で，咀嚼粘膜には基礎維持が得られた無圧的印象，一部被覆粘膜には閉鎖維持を期待した選択加圧印象を行って義歯製作を行う計画を立案した．治療内容を説明している際の本人の表情は真剣そのもので，義歯新製に対する強い想いが感じられた．

■ **治療の実際：**概形印象を混水比の高いアルジネー

ト印象材で無圧的採得を行った後、個人トレーを用いて閉鎖弁維持を得るため、デュアルキュア型レジン裏装材を用いて上顎結節部と下顎舌側部の筋形成

を行った後、酸化亜鉛ユージノール系印象材で精密印象採得を行った。



図 5 a, b 上顎結節部と下顎舌側部にデュアルキュア型レジン裏装材により筋形成を施した。

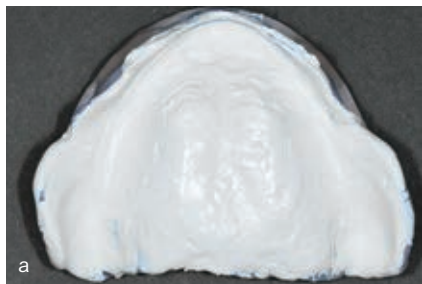


図 6 a, b 酸化亜鉛ユージノール系印象材による精密印象体。



図 7 ゴシックアーチを用いて下顎位を設定。

治療結果の自己評価と患者の様子

■**治療のポイントと治療結果**：咀嚼粘膜の無圧的印象と被覆粘膜の選択加圧印象の調和がとれており、適切な維持の印象体が得られた。

■**自己評価**：Max Bosshart氏より学んだ理論にて総義歯製作を行ったことで臨床が大きく飛躍し、同時に患者の満足が得られる総義歯を製作できた。しかし、慣れていない手技の無圧的印象採得で来院回数を増やしてしまい、患者への精神的、肉体的負担をかけてしまったことは反省点である。

■**患者との信頼を築けたと感じた瞬間**：義歯製作工

程が進むにつれて「今の作業は何をしているのですか？」と質問されるようになり、だんだんと患者と心が通じ合っていくように感じた。

■**今後の課題**：Max Bosshart氏から印象採得法その他、模型分析の重要性、ゴシックアーチ描記法、顎関節とコンディレーター咬合器との調和など、多くのことを学ぶことができた。しかし、まだ十分に会得できておらず、真の患者利益にはなっていないのが現状である。さらに研鑽を積み、1人でも多くの総義歯装着者の利益と幸福に寄与できるようにしたい。



図8a 完成義歯(技工担当:須山譲氏).



図8b 完成義歯口腔内装着時.

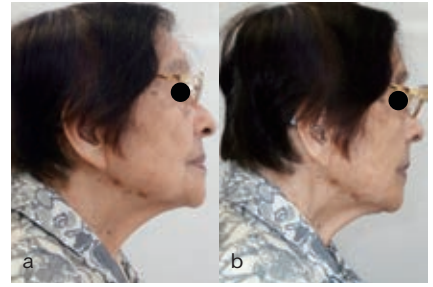


図9 a, b 旧義歯装着時側方面観顔貌と完成義歯装着時の側方面観顔貌. 前方にあった下顎位も後方へ修正されている.

図10 | 図11

図10 下顎義歯の適合はよく, セット時にはクチャッと音を立てて吸着する感覚を手指で感じられた.

図11 開口しても安定しており, 機能的にも審美的にも患者満足度の高い総義歯を製作することができた.



message

先輩ドクターから

▶ ケースから感じること

症例は, 高齢に加えて重度に顎堤が吸収しており, 旧義歯は咬合高径の低位, 長期の粘膜面不適合であり, 総義歯新製において多くの問題点を解決しなければならない. とくに, 下顎の重度吸収した顎堤の印象採得は, 困難であると推測した.

Max氏より, 印象採得において, 下顎ではサブリングアルロールの封鎖, 頬棚部の外斜線まで延長, 上顎では上顎結節部外側弁維持の重要性について学んだことが印象体に生かされている. また, 可塑性材での印象採得の重要性を理解され, 酸化亜鉛ユーージノールペーストを選択されたこともよかったと考える. 印象体も印象材が抜けたり, 剥げたりしておらず, トレーの調整も印象圧も適切であったと考えられる. なお, 写真では患者は自然な顔貌を回復されており, 適切な咬合高径の設定であったと思われる.

▶ さらに成長してもらうためのメッセージ

Max氏は, 新製前の前処置の重要性も説かれていた.



五十嵐尚美

栃木県開業・いがらし歯科イーストクリニック/
いがらし歯科医院

本症例の問題点として, 咬合の低位と支持面積に対して小さな床縁の旧義歯と術者が診断しているのであれば, まず旧義歯もしくは旧義歯のコピーデンチャーで義歯床縁の再設定, 咬合再構成を行い, 患者の許容を確かめるべきであったと考える. また, 本症例では顎位の再設定が必要なため, ゴシックアーチの術前描記, 咬合再構成後の描記, 新義歯製作中の描記が必要である. 示されたゴシックアーチ描記(下顎描記板)でも, 右側方運動時の描記のサイドシフトと疑われる描記も見受けられるため, 顎機能をはじめ経時的な変化をダイナミックフェイスボウのレジストレーションを含めて診断すべきであったと考える.

ただ, 初めて使用された酸化亜鉛ユーージノール印象材での印象採得で, 適切に行われているのを拝見させていただき, 着実に結果を残されていると感じている. 引きつづきGerberメソッドやその他の勉強に努め, 患者利益のために研鑽を重ねていただきたい. また, 若輩者の私も一緒に勉強していきたいと感じている.